

講義コード	1N010012
講義名	コミュニケーション学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1308
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 山田 富美雄	指定なし

#### 担当教員

山田 富美雄

#### 講義の目的

看護師にとって、患者や医療従事者との意思疎通は欠くことの出来ない重要なスキルです。こうしたコミュニケーションの重要性に気づき、基本となるスキルを身につけることがこの講義の目的です。

#### 到達目標

コミュニケーションの大切さを知り、積極的に誰とでも意志疎通ができるよう、スキルアップに意欲をもつ看護学生になることを目標としましょう

#### 授業計画表

#### 授業計画

##### 一回目

1. コミュニケーションとは何か
2. ヘレンケラー物語から学ぶコミュニケーション
3. 言語によるコミュニケーション
4. 非言語コミュニケーション

##### 二回目

5. 感情の伝達、感情のもつれ
6. 落語から学ぶコミュニケーション（空気を読む）
7. 感情をコントロールする（ストレスマネジメント）
8. 人の話を聞く（傾聴法実習）

##### 三回目

9. 理解する（笑いの極意）
10. 理解させる（説明と説得）
11. 問題を解決する（論理療法を学ぶ）
12. 自己主張訓練を学ぶ

##### 四回目

13. 療養行動とコミュニケーション

14. ソーシャルサポート

15. 再びコミュニケーションとは何か

### 成績の評価

提出物40点、試験60点

### 自己学習

二回目以降、事前配布物を予習すること

### 履修上の注意

集中講義形式で、一回4コマの日が3回、3コマの日が1回あります。ビデオ視聴、グループ討論、ゲーム、提出物等授業に出席するだけでなく、積極参加することによって理解を深めるよう努力してください。講義とノートとりだけの座学ではありません。参加し、相互作用から多くを身につけてください。

### テキスト

使用しない 配付資料を用いる

### 参考文献

「医療現場のコミュニケーション」 (あいり出版)

上野徳美・久田満 (編)

「医療行動科学のためのミニマムサイコロジー」 (北大路書房)

山田富美雄 (監修・編)

講義コード	1N014013
講義名	スポーツと健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1209
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし

#### 担当教員

五十嵐 純

#### 講義の目的

現代社会の発達は、快適な生活を私たちに与えてくれている反面、オーバーストレスや運動不足を引き起こしている。本講義では、ストレスや運動不足が肥満や動脈硬化などの生活習慣病の原因になること、また、日常生活や臨床の場で関わりの深い腰痛、高血圧、肥満などの成り立ちと運動との関わりについての知識を身につけることを目的とする。さらにスポーツはその実践方法によっては身体に悪影響を及ぼすことから、加齢とトレーナビリティ、スポーツ障害などを学び、基礎的な応急処置とその理論を習得する。

#### 到達目標

健康や健康づくりを知り、実践できるようになる。  
有酸素運動についての正しい知識を身につける。  
スポーツによるけがと予防法を知る。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. スポーツとは、スポーツと健康、レクリエーションスポーツ
2. 健康の定義、健康を学ぶ意義、個人の健康と社会
3. ヘルスプロモーション、健康づくり施策について
4. 日本における健康づくり施策について
5. 健康日本21（第二次）の説明
6. 体力とは、行動関連体力と防衛関連体力
7. 有酸素運動と無酸素運動、エネルギー供給機構
8. 酸素摂取量、呼吸商、最大酸素摂取量、運動強度、心拍数、呼吸数
9. 有酸素運動に適した運動①（ウォーキング）
10. 有酸素運動に適した運動②（ウォーキング）、健康づくりとウォーキング
11. 運動強度について、使用する筋、下肢への衝撃
12. 有酸素運動に適した運動②（ジョギング）
13. 有酸素運動に適した運動③（エアロビックダンス）

14. 有酸素運動に適した運動④（水泳・水中運動）

15. 肥満と運動

#### 成績の評価

試験（100%）にて評価。なお必要に応じてレポート提出などを行い、総合的に評価する。

#### 自己学習

学んだことを自分の生活の中で実践してみる。

#### 履修上の注意

理論として理解することは大切なことであるが、それを普段の生活で実践するように心がけること。

遅刻、早退は1/3欠席として取り扱う。

担当者に伝えずに途中退席した者は欠席とみなす。

#### テキスト

#### プリント配布

#### 参考文献

「健康運動実践指導者用テキスト」

健康・体力づくり事業財団

#### オフィスアワー

#### 木曜の昼休み

#### 研究室

診療・研究棟4階 401研究室

#### 授業用E-mail

[igarashi@kansai.ac.jp](mailto:igarashi@kansai.ac.jp)

講義コード	1N030011
講義名	フィジカルアセスメント
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 山根木 貴美代	指定なし

#### 担当教員

山根木貴美代 松下直子

#### 講義の目的

看護は、さまざまな健康レベルにある人々の状況を客観的に査定し、看護ケアの評価を行う必要がある。この科目は対象者の状況を把握し判断するための技術として、バイタルサイン測定 of 技術、フィジカルアセスメントの知識と基礎的技術を学ぶ。

#### 到達目標

1. バイタルサインの基礎的知識が理解できる。
2. バイタルサイン測定の基礎的技術が実施できる。
3. 看護に必要なフィジカルアセスメントの基礎的知識が理解できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義
2. バイタルサイン (呼吸・脈拍)
3. バイタルサイン (血圧)
4. バイタルサイン (体温)
5. バイタルサイン 演習
6. バイタルサイン 演習 (事例患者のバイタルサイン測定)
7. 呼吸器系のフィジカルアセスメント
8. 循環器系のフィジカルアセスメント
9. フィジカルアセスメント演習 (呼吸音の聴診、心音の聴診)
10. フィジカルアセスメント演習 (事例患者のフィジカルアセスメント)
11. 消化器系のフィジカルアセスメント
12. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント (ADL、MMT、LOM)
13. フィジカルアセスメント演習 (バイタルサイン測定の実技チェック、腸蠕動音の聴診)
14. フィジカルアセスメント演習 (事例患者のフィジカルアセスメント)
15. 脳神経系のフィジカルアセスメント (意識レベル)

#### 成績の評価

筆記試験80%、小テスト・バイタルサイン測定実技・演習記録および平常点など20%にて評価する。

### 自己学習

「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」と併せて理解を深めることが重要である。テキストの該当単元に目を通し、学習内容を把握しておく。

### 履修上の注意

1. 技術の方法だけに注目するのではなく、技術の原理・原則や根拠を理解することが重要である。
2. 演習を主体として授業を展開するので、演習前や演習後に演習記録の課題がある。
3. 技術の習得には演習時間だけでなく、自己学習による練習を行うことが必要である。
4. 記録の提出は時間厳守とする。

### テキスト

1. 「日常生活行動からみるヘルスアセスメント」（日本看護協会出版会）
2. 「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）

### 参考文献

授業中に適宜紹介する。

### オフィスアワー

火曜日 12:10～13:10

### 研究室

5号館7階 C716研究室

講義コード	1N065012
講義名	英語表現法Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1302
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

#### 担当教員

吉田仁志

#### 講義の目的

現代の社会や世相に関する英文を読み、その話題について英語で表現できるようになること。

#### 到達目標

聴解・読解・文法・作文の演習を通して英語の特質を理解すること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 盛んになる国際観光
2. 海外で上昇する日本食の人気
3. ホームステイ
4. オリンピックとパラリンピック
5. ノーベル賞
6. 健康維持
7. 就職活動
8. 大学改革
9. スマートフォンの利点と欠点
10. 日本の宇宙科学の快挙
11. 日本の食料自給率
12. 低い出生率と高齢化社会
13. 地球温暖化
14. 拡大する貧富の格差
15. マナーの悪さ

#### 成績の評価

定期試験70%、平常点30%で評価します。

#### 自己学習

入念な予習を期待します。

履修上の注意

必ず(電子)辞書を持ってきてください。

テキスト

木塚晴夫(著), 『文法・用法もよくわかるトピック英作文15章』(鶴見書店)  
ISBN 978-4-7553-0379-1

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間。

研究室

5号館7階 C720 研究室

講義コード	1N066013
講義名	英語表現法Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1303
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 仁志	指定なし

#### 担当教員

吉田仁志

#### 講義の目的

Voice of America (VOA)という放送局で放送された健康と環境に関する様々な英文を読み、当該トピックについて理解を深め、そのトピックについて英語で自分の意見を言えるようになること。

#### 到達目標

聴解・読解・文法・作文の演習を通して英語の特質を理解すること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 中東の異常な温暖化
2. 植物による女性の長寿化
3. ドローンが天気予報精度を向上させる
4. 肥満体のヒトの増加傾向
5. 生態系の中で自然を蘇らせると...
6. アメリカで3番目に多い死因とは？
7. 植物消滅の危機？
8. 多剤耐性結核との闘い
9. エルニーニョがもたらす飢餓
10. ホッキョクグマの運命は？
11. 人工衛星による磁気嵐の観測
12. ナッツは健康に良い？
13. 砂嵐が感染症を広める？
14. ヒトの脳を救う方法
15. 生息地を失う鳥たちの運命

#### 成績の評価

定期試験70%、平常点30%で評価します。

## 自己学習

入念な予習を期待します。

## 履修上の注意

必ず(電子)辞書を持ってきてください。

## テキスト

安浪・Lavin (共編), 『VOA健康と環境レポート1』(松柏社)  
ISBN 978-4-88198-726-1

## オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間。

## 研究室

5号館7階 C720 研究室

講義コード	1N085012
講義名	環境と健康
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N1-2301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 健治	指定なし

#### 担当教員

松本 健治

#### 講義の目的

人間の健康だけでなくあらゆる生命体の生命の質（QOL）は様々な環境要因によって左右される。種々の環境を理解したうえで、様々な環境が人間の心身にどのような影響をあたえるのかを学習する。

#### 到達目標

環境と健康の関連についての考え方や環境・健康学の基礎を学習したうえで、具体的内容として健康に影響を及ぼす様々な環境因子と疾病・障害予防対策が理解できるようになり、将来、医療専門職としての基礎的な知識が身に付く。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 環境と健康  
環境と人間との相互関係、生態系の営み
2. 物理的環境（その1）  
温熱条件、騒音、振動
3. 物理的環境（その2）  
電磁波、異常気圧
4. 化学的環境（その1）「空気と健康」を中心に
5. 化学的環境（その2）  
有害化学物質の吸収、体内蓄積、排泄、症状、  
障害の予防、変異原と催奇形原
6. 生物的環境  
病原微生物、病原体を保有または媒介する動物
7. 生物的環境：寄生虫、有毒動植物を中心に
8. 食物環境：食の安全性をめぐって
9. 衣服と住居環境  
快適条件、シックハウス症候群

10. 水をめぐる問題：水と健康
11. 公害の人間生活への影響  
身体的・精神的・心理的影響、防止対策、  
環境保全の原則
12. 地球環境問題（その1）  
地球環境と生活、残留性有機汚染物質、  
内分泌攪乱化学物質、有害廃棄物の越境移動
13. 地球環境問題（その2）  
オゾン層の破壊、地球温暖化
14. 地球環境問題（その3）  
酸性雨、砂漠化、熱帯林減少、野生生物種減少、海洋汚染
15. 地球環境問題（その4）とまとめ  
地球環境問題への取組み

#### 成績の評価

国試形式による試験40問（80%）とミニレポートを含む受講態度（20%）で評価します。

#### 自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と事前配布資料で予習することが肝要です。

#### 履修上の注意

無断欠席は最悪。毎回ミニレポートを課します。

#### テキスト

1週間以上前に講義内容の抄録と関連資料を配布します。

#### 参考文献

適宜、紹介します。

#### オフィスアワー

#### 開講時限の前後休憩時間

#### 研究室

#### 講師控室

#### 授業用E-mail

[kenmatsu@wakayama-med.ac.jp](mailto:kenmatsu@wakayama-med.ac.jp)

講義コード	1N091011
講義名	看護学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

#### 担当教員

辻幸代

#### 講義の目的

この科目は、看護とは何か、看護職はどのような役割を果たしているかを知り、看護について探求する科目である。看護の中心的概念である、「人間」「環境と生活」「健康」について学ぶとともに、看護の歴史や我が国の医療や看護の状況について知り、看護のあり方を考える。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。看護学を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「人間力」や「仕事力」が身につくよう授業を展開する。

#### 到達目標

1. 看護の歴史をふまえて、看護の定義や役割を述べる。
2. 看護学の視点から人間をどのように理解しているかを述べる。
3. 健康のとらえ方と我が国の健康状態の概要を述べる。
4. 看護提供の仕組みと法制度について述べる。
5. 授業を通して看護とは何かを考え、自分の意見を言える。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンスおよび看護学の学びの特徴
2. 看護の語源と看護の歴史
3. 近代看護の確立とナイチンゲール
4. 看護の定義と役割、機能
5. 看護の対象である人間の理解
6. 人間のニードとヘンダーソン
7. 健康の概念と生活の理解
8. 我が国の健康指標 1
9. 我が国の健康指標 2
10. 健康レベルと看護活動
11. 看護サービスと提供のしくみ

- 1 2. 保健師助産師看護師法について
- 1 3. さまざまな分野で活躍する看護職
- 1 4. 看護教育とキャリア
- 1 5. 看護と倫理

#### 成績の評価

期末試験90%とミニレポート等を10%として評価する。

#### 自己学習

1. 授業計画を参照して、事前に該当するテキストをよく読んで受講する。
2. 授業で配布する資料に記載している課題を行う。

#### 履修上の注意

1. この授業は、看護とは何かを考える科目であるため、自分の考えや意見を求めるので、積極的な態度で受講する。
2. 授業で配布した資料に学んだことを記載することによって、学修内容が整理されるので、配布資料を活用する。

#### テキスト

「系統看護学講座・専門分野Ⅰ 看護学概論」(医学書院)

#### 参考文献

1. 「看護覚え書」F.ナイチンゲール著, 小玉香津子, 尾田葉子訳, 日本看護協会出版会
2. その他は授業中に紹介する。

#### オフィスアワー

水曜日 (12:10~13:10) とします。

#### 研究室

5号館7階C707研究室

#### 授業用E-mail

[s.tsuji@kansai.ac.jp](mailto:s.tsuji@kansai.ac.jp)

講義コード	1N092011
講義名	看護活動と理論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

#### 担当教員

辻幸代

#### 講義の目的

人々の暮らしや価値観が多様化し、医療や看護を取り巻く状況も日々変化している中、看護は社会のニーズの応えるべく役割や機能が拡大している。一方、時代が変わり、世の中が変化しても普遍的な看護の本質が存在する。この科目は、先人たちが築いた看護の理論を学び、看護とは何かを自己に問うことで、看護の本質から看護実践のあり方を探求する。

#### 到達目標

1. 看護理論は何かを述べることができる。
2. 代表的な理論の概要について述べるができる。
3. 看護理論の歴史的変遷について述べるができる。
4. 看護理論の看護実践への活用について考えることができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス及び看護理論の定義
2. ナイチンゲールとその理論 1
3. ナイチンゲールとその理論 2
4. ヘンダーソンとその理論 1
5. ヘンダーソンとその理論 2
6. ヘンダーソンとその理論 3
7. ウィーデンバックとその理論 1
8. ウィーデンバックとその理論 2
9. ペプロウとその理論
10. オレムとその理論 1
11. オレムとその理論 2
12. ロイとその理論 1
13. ロイとその理論 2
14. 実習で体験したことと理論

## 15. ベナーとその理論

### 成績の評価

期末試験80%と授業中に記載する振り返りシート20%の記述を合わせて評価する。

### 自己学習

毎回の授業で学修した内容を振り返りシートに記載して提出する。

### テキスト

「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯楨ます，小玉香津子訳，日本看護協会出版会

### 参考文献

授業中に適宜紹介します。

### オフィスアワー

月曜日の (12:10~13:10) とします。

### 研究室

5号館7階C707研究室

### 授業用E-mail

[s.tsuji@kansai.ac.jp](mailto:s.tsuji@kansai.ac.jp)

講義コード	1N101011
講義名	基礎看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3109
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

#### 担当教員

辻幸代・中納美智保・山根木貴美代・松下直子・井出窪澄子

#### 講義の目的

あらゆる看護活動の場で、さまざまな対象者のニーズに対応できる看護の基礎的実践能力を養うために、病院での実習を通して患者とのコミュニケーションや療養環境、心理的变化、さらに看護の役割について学ぶ。

#### 到達目標

1. 病院の構造・機能を知る。
2. 病棟の看護活動の特徴を知る。
3. 病院における看護活動の実際を知り、看護師の役割と実践を知る。
4. 対象者に基本的コミュニケーション技術を用いてコミュニケーションができる。
5. コミュニケーションを通して対象者の生活の変化や気持ちを知る。
6. 看護チームの一員であることを自覚し、看護学生としてふさわしい行動や適切なコミュニケーションがとれる。
7. 実習を通して看護への関心が高まる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 基礎看護学実習Ⅰ実習要項を参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

### 成績の評価

実習への取り組み・自己学習・実習記録を総合的に評価する。

### 自己学習

実習オリエンテーションで説明する

### 履修上の注意

- 1.看護学実習要綱と基礎看護学実習Ⅰの要項をよく理解しておく。
- 2.健康管理に留意し、欠席等がないように臨む。

### テキスト

テキストは指定しない。

### 参考文献

適宜紹介する。

### オフィスアワー

### 昼休み

### 研究室

C708研究室

### 授業用E-mail

[nakano@kansai.ac.jp](mailto:nakano@kansai.ac.jp)

講義コード	1N139013
講義名	国語表現法
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 南山 かおり	指定なし

#### 担当教員

南山 かおり

#### 講義の目的

この講義は、コミュニケーション手段の一つとしての「文章表現」について論じる。文章による伝達は、今や現代社会において、大きな比重を占めるようになってきた。私たちは、日常生活の様々な場面で、日本語によって文章を綴ることを避けることはできない。それは、医療の現場においても、また同じである。カルテや紹介状の作成等、現場では常に正確で明瞭な文書の作成を要求されるだろう。よって、講義の中では、自らの意図するところを的確に表現し、よりよい文章を書くためには何が必要か、身近な事例を通して考えてゆくことにする。

#### 到達目標

的確な言語表現を実現するため、まずは、その表現媒体である「日本語」についての知識を深め、興味を喚起することを第一の目標とする。さらにその上で、本当によい文章とは何か、正確に伝えるには何が必要か、について、自身の基準を持てるようになること、それが第二の目標である。このことによって、実際の表現の場においても、常に慎重に自らの日本語を見つめ、より深いコミュニケーションを実現する力が身につくものとする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス — 授業の概要と成績評価について
2. I. ことばに敏感になる — 1. 語感をつかむ
3. I. ことばに敏感になる — 2. 「思う」と「考える」
4. I. ことばに敏感になる — 3. 「ある」と「いる」
5. I. ことばに敏感になる — 4. 語源を意識する
6. I. ことばに敏感になる — 5. 派生語に注目する
7. I. ことばに敏感になる — 6. 漢字と漢語
8. I. ことばに敏感になる — 7. 漢語の特徴
9. II. 文の構造を考える — 1. 「ハ」と「ガ」はどう違うか

- |                   |   |                |
|-------------------|---|----------------|
| 10. II. 文の構造を考える  | — | 2. 「ハ」の働き      |
| 11. II. 文の構造を考える  | — | 3. 「ガ」の働き      |
| 12. II. 文の構造を考える  | — | 4. 「ハ」の文、「ガ」の文 |
| 13. III. ことばは変化する | — | 1. ことばの揺れを観察する |
| 14. III. ことばは変化する | — | 2. 「ら抜きことば」の問題 |
| 15. III. ことばは変化する | — | 3. 情報の使い方      |

#### 成績の評価

レポート提出50%・レポート内容40%・平常点10%  
(なお、詳細については、授業時に伝える)

#### 自己学習

講義中に紹介した参考図書や、その他の日本語に関する本を読む等して、平生から「日本語に対する興味・理解を深める」ことを心がける。

#### 履修上の注意

課題のレポートは必ず提出すること。未提出の場合は単位を認定できない。

また、不必要な私語や途中退席等、授業の妨げになる行為は慎むこと。指示を守れない者は出席を認めないので注意すること。

#### テキスト

毎回、授業時にプリントを配布。

#### 参考文献

- 「日本語練習帳」 (岩波新書) 大野晋  
「日本語はおもしろい」 (岩波新書) 柴田武  
「私家版 日本語文法」 (新潮文庫) 井上ひさし  
「日本語はなぜ変化するか」 (笠間書院) 小松英雄

講義コード	1N155012
講義名	社会福祉論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1205
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡辺 元嗣	指定なし

#### 担当教員

渡辺 元嗣

#### 講義の目的

近年、社会福祉は地域での保健・医療と深く連携しており、医療関係者の教育においては、社会保障制度のみならず、医療活動と社会福祉・社会保障との接点を学ぶことが必要とされている。社会福祉を学ぶことは、現場での活動をさらに充実させるために必要不可欠なものになっている。講義では、社会福祉の諸施策について、その仕組み、現状、法制度等について概説するとともに、社会福祉・社会保障の具体的事例を積極的に取り入れ、よりよい援助活動が展開できる資質を養う。

#### 到達目標

社会福祉の諸施策について、その仕組み、現状、法制度等について基本的な知識を学ぶとともに、社会生活のなかで社会福祉・社会保障の内容がどのように問われているのか、具体的問題事例をとおして、社会福祉・社会保障と社会生活の接点を考える力と資質を養う。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 生活と福祉 社会福祉の考え方
2. 社会保障の概念・歴史・制度体系
3. わが国の社会保険制度①：社会保険の役割と制度の分類
4. わが国の社会保険制度②：保険医療制度
5. わが国の社会保険制度③：介護保険制度
6. わが国の社会保険制度④：年金保険制度
7. わが国の社会保険制度⑤：労働保険制度
8. 社会福祉の歴史①ヨーロッパ・アメリカ
9. 社会福祉の歴史②日本
10. 社会福祉の諸制度と施策①：生活保護法と施策
11. 社会福祉の諸制度と施策②：児童福祉と施策
12. 社会福祉の諸制度と施策③：障害者の福祉施策
13. 社会福祉の諸制度と施策④：高齢者の福祉施策

14. 社会福祉行政の仕組み

15. 社会保障・社会福祉改革の動向

#### 成績の評価

- ・必要に応じてレポート課題を実施する。
- ・平常点、レポート等及び期末試験の成績等で総合的に評価する。

#### 自己学習

下記の文献などを参考に、社会福祉に関心を持つとともに、授業で学んだことを日常生活の中で考える習慣をつけよう。

#### 履修上の注意

社会福祉について具体的に学ぶ場面、考える場面も用意する。  
積極的な参加を期待する。

#### テキスト

教材として、毎回、印刷物を配布する。

#### 参考文献

「新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉」 (メヂカルフレンド社) 山崎泰彦 編集

その他、講義の中で紹介します。

講義コード	1N157011
講義名	手話A
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1309
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 浅野 みのり	指定なし

#### 講義の目的

聴覚に障害がある人々が用いる言語である「手話」を実践的に学修します。この学修で聴覚障害者の理解を深め、言語を知り、コミュニケーションの枠を広げていくことが目的です。看護の場面でよく使用される手話についても学習します。

#### 到達目標

手話であいさつ・自己紹介・簡単な会話ができ、聴覚障害者の社会資源についての知識も深めます。看護の現場で手話を使って会話ができるレベルを目指します。

#### 授業計画表

##### 授業計画

- 1.聴覚障害者の基礎知識 身振りを学びましょう
- 2.名前を紹介しましょう
- 3.家族を紹介しましょう
- 4.趣味について話しましょう
- 5.数字を使ってみましょう
- 6.家・道案内をしてみましょう
- 7.自己紹介のまとめ
- 8.看護場面でよく使う手話を使ってみましょう
- 9.一日の出来事を話しましょう
- 10.一か月の出来事を話しましょう
- 11.一年の出来事を話しましょう
- 12.災害に関する手話を使ってみましょう
- 13.話し合ってみましょう
- 14.実技テスト
- 15.まとめ

#### 成績の評価

実技を伴う授業のため、授業中の学習態度も踏まえて評価する  
 試験40% 平常点20% 学習態度40%で評価する

#### 自己学習

復習では辞典を使い繰り返し手話を使うことが重要です

### 履修上の注意

実技による授業のため、授業態度を重視します

### テキスト

「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！」

「わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 発行

### 参考文献

その都度紹介する

講義コード	1N157012
講義名	手話B
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1309
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 吉川 由花	指定なし

#### 講義の目的

聴覚に障害がある人々が用いる言語である「手話」を実践的に学修します。この学修で聴覚障害者の理解を深め、手話を知り、コミュニケーションの枠を広げていくことが目的です。看護の場面でよく使用される手話についても学習します。

#### 到達目標

手話であいさつ・自己紹介・簡単な会話ができ、聴覚障害者の社会資源についての知識も深めます。看護の現場で手話を使って会話ができるレベルを目指します

#### 授業計画表

##### 授業計画

- 1.聴覚障害者の基礎知識 身振りを学びましょう
- 2.名前を紹介しましょう
- 3.家族を紹介しましょう
- 4.趣味について話しましょう
- 5.数字を使ってみましょう
- 6.家・道案内をしてみましょう
- 7.自己紹介のまとめ
- 8.看護場面でよく使う手話を使ってみましょう
- 9.一日の出来事を話しましょう
- 10.一か月の出来事を話しましょう
- 11.一年の出来事を話しましょう
- 12.災害に関する手話を使ってみましょう
- 13.話し合ってみましょう
- 14.実技テスト
- 15.まとめ

#### 成績の評価

実技を伴う授業のため、授業中の学習態度も踏まえて評価する  
 試験40% 平常点20% 学習態度40%で評価する

#### 自己学習

復習では辞典を使い繰り返し手話を使うことが重要です

### 履修上の注意

実技による授業のため、授業態度を重視します

### テキスト

「今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう！」

「わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ」

一般財団法人 全日本ろうあ連盟 発行

### 参考文献

その都度紹介する

講義コード	1N177012
講義名	心理学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1203
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 亀 節子	指定なし

#### 担当教員

亀 節子

#### 講義の目的

「人間とはどのような生命体であり、いかに感じ、行動し、生きているのか」という多岐にわたる心理学のテーマの中から、本講義では特に「感情」と「個性」をとりあげることによって、人間理解を深め、広い精神を養っていくことを目指す。

#### 到達目標

人間理解をとおして、自らも周りの人もよくしていこうとする意欲を身につけること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. I 「自らを知る」 & 「他者を知る」
2. II 主な心理学者の理論 (フロイト&アドラー)
3. II 主な心理学者の理論 (ユング、その他)
4. II 主な心理学者の理論 (マズロー、その他)
5. III 感情の心理学 (感情論の略史)
6. III 感情の心理学 (感情の科学)
7. III 感情の心理学 (情動と身体反応)
8. IV 痛みの心理学
9. V 運動指導の心理学的基礎 (感情と行動の適応的变化)
10. V 運動指導の心理学的基礎 (個別カウンセリング方法)
11. VI 遺伝と環境 (学習と記憶)
12. VI 遺伝と環境 (本能の役割)
13. VII コミュニケーション論 (親子の心理学)
14. VII コミュニケーション論 (イメージ論&交流分析)
15. VIII 古人(いにしえびと)の人間観と528Hz

#### 成績の評価

期末時の筆記試験(自筆ノート持ち込み可能)の結果を主とするが、受講態度も平常点として評

価対象とする

(試験70%・平常点30%)。

自己学習

普段から、自らの人格に対する純な向上心を培っておくことが求められる。

履修上の注意

自分自身で感じとって考える、という過程の大切さを認識しながら受講すること。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

金曜日 16時から17時

研究室

管理棟2階 204研究室

授業用E-mail

[skame@kansai.ac.jp](mailto:skame@kansai.ac.jp)

講義コード	1N187013
講義名	人体の機能Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎葉 均	指定なし

#### 担当教員

榎葉均

#### 講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。看護師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅰ」では神経・内分泌について講義します。

#### 到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを目標として下さい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 生理学とは
2. 神経液の分類
3. 自律神経と末梢神経
4. 体性感覚
5. 特殊感覚
6. 骨格筋の構造
7. 筋収縮の仕組み
8. 中枢神経系
9. 脊髄神経と脳神経
10. 内分泌の仕組み
11. ホルモンの種類と働き
12. ホルモン分泌の調節
13. 代謝を調節するホルモン
14. 生殖と性ホルモン
15. 総括

#### 成績の評価

試験100%にて評価します。ただし、授業の1/3を超えて欠席した者は受験する資格がありません。

#### 自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。

#### 履修上の注意

1年生のうちに専門科目の基礎となる生理学の知識を十分に身につけておいて下さい。

#### テキスト

「人体生理学の基礎 改訂版第二版」 池原敏孝、他著 医学出版社

#### 参考文献

適宜、講義中に紹介します。

#### オフィスアワー

火曜日と水曜日の昼休み時間

#### 研究室

管理棟2階206室

#### 授業用E-mail

[kashiba@kansai.ac.jp](mailto:kashiba@kansai.ac.jp)

講義コード	1N188013
講義名	人体の機能Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2104
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎葉 均	指定なし
教員	大島 稔	指定なし

#### 担当教員

大島 稔

#### 講義の目的

生理学 (Physiology) は万人に共通する身体の仕組みについて探求する学問です。この学問は基礎医学の中で特に重要な科目の一つで、あらゆる西洋医学のベースとなる領域です。看護師においてもその重要性にかわりはありません。「人体の機能Ⅱ」では循環・代謝・呼吸・排泄について講義します。

#### 到達目標

以下に記したテキストに記載されている人体の機能の仕組みについて理解することを到達目標にして下さい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 細胞膜と細胞小器官
2. 遺伝子と蛋白質合成
3. 消化管運動
4. 消化液
5. 吸収と肝臓
6. 栄養素と代謝、体温
7. 排泄 (ネフロン)
8. 排泄 (排尿反射)
9. 呼吸(呼吸運動)
10. 呼吸 (ガス交換)
11. 血液 (血球)
12. 血液 (血漿)
13. 循環 (心臓)
14. 循環 (血液循環)
15. 循環 (循環の調節)

## 成績の評価

試験100%で評価します。

## 自己学習

事前にテキストを十分に読み込んで、理解できない個所を抽出しておくことが重要です。

## 履修上の注意

座席指定を行い、そこに座っていることで出席を取ります。

## テキスト

「人体生理学の基礎 改訂版第二版」 池原敏孝、他著 医学出版社

## 参考文献

適宜、講義中に紹介する。

## オフィスアワー

時間があるときであれば、いつ部屋に来ていただいても対応します。

## 研究室

診療研究棟4階404室

## 授業用E-mail

[ohshima@kansai.ac.jp](mailto:ohshima@kansai.ac.jp)

講義コード	1N194013
講義名	人体の構造Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 東家 一雄	指定なし

#### 担当教員

東家一雄

#### 講義の目的

人体の構造は看護系教育の初期段階で学ぶ必要があります。なぜなら、ヒトの健康や病気のあり方を考えていくためには、身体をつくる要素（細胞、組織、臓器など）の形や構造を正しく理解しておく必要があるからです。この授業ではヒトの身体の構造を系統的に取り扱う人体系統解剖学に関して、特に骨格系、筋系、脈管系の成り立ちについて学ぶことを目的とします。

#### 到達目標

本科目の履修により、ヒトの身体が細胞から器官系に至る諸要素が構造的に調和と連係を保ちながら成り立っているということを知り、それらの諸要素の形や構造についてイメージしたり体系的に考察したりできるようになることを目指します。また、受講生が人体解剖学という学問領域への関心を深めて自ら積極的に学修に取り組む姿勢を身につけ、学んだ知識を他の専門科目の理解へとつなげる基礎にして欲しいと考えています。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 第1回 講義ガイダンス、人体の構成
- 第2回 骨系①（全身の骨格、骨の一般、関節）
- 第3回 骨系②（頭蓋の骨）
- 第4回 骨系③（脊柱と胸郭の骨）
- 第5回 骨系④（上肢の骨）
- 第6回 骨系⑤（骨盤と下肢の骨）
- 第7回 筋系①（筋の一般、頭頸部の筋）
- 第8回 筋系②（胸腹部と背部の筋）
- 第9回 筋系③（上肢の筋）
- 第10回 筋系④（下肢の筋）
- 第11回 循環器系①（血管の一般、造血）
- 第12回 循環器系②（心臓）
- 第13回 循環器系③（動脈系）

第14回 循環器系④（静脈系）  
第15回 循環器系⑤（リンパ系、胎児循環）

#### 成績の評価

定期試験期間中に行う筆記試験の成績に基づき評価します。

#### 自己学習

1回目の授業で配付する授業進行表を参考にして主体的かつ積極的に予習と復習を行い、各自が授業内容をよく吸収するよう努めてください。特に、復習については毎回の授業で演習問題を配付するので、それらを活用して学んだ内容を確認しておくこと。また、生じた疑問は放置せずに、問題意識を持って解決するようにしてください。

#### 履修上の注意

本科目は必修科目のため毎回の授業で出席を確認します。また、静穏な教室環境の下で円滑に授業を進行するため、授業中の私語禁止等の常識的な受講マナーの順守を求めます。配付資料等については紛失しないよう整理して適切に管理すること。

#### テキスト

「入門人体解剖学 改訂第5版」（南江堂）藤田恒夫 著  
※講義の資料として毎回プリントを配付します。

#### 参考文献

「日本人体解剖学（改訂19版）」（上・下巻）（南山堂）金子丑之助 原著  
「プロメテウス解剖学アトラス」（全3巻）（医学書院）坂井建雄ら 監訳  
「人体解剖カラーアトラス（原書第5版）」（南山堂）佐藤達夫 訳

#### オフィスアワー

毎週水曜日放課後（16:30～18:00）

#### 研究室

管理棟2階201研究室

#### 授業用E-mail

[ktohya@kansai.ac.jp](mailto:ktohya@kansai.ac.jp)

講義コード	1N195013
講義名	人体の構造 II
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 戸村 多郎	指定なし

#### 担当教員

戸村多郎

#### 講義の目的

系統解剖学的区分に基づき、器管の形態や構造の特徴について理解できるようにテキストとオリジナル資料で講義します。人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目的とします。

#### 到達目標

下記講義計画の内容について正確な理解を目指します。また講義後も自立学習が出来ることを目指します。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 解剖学について／消化器系[総論]
2. 消化器系[口腔, 歯, 舌]
3. 消化器系[唾液腺, 咽頭, 食道]
4. 消化器系[胃, 小腸]
5. 消化器系[大腸, 肝臓]
6. 消化器系[胆嚢, 膵臓]／呼吸器系[外鼻, 鼻腔, 副鼻腔]
7. 呼吸器系[喉頭, 気管, 気管支, 肺]
8. 泌尿器系[腎, 尿管, 膀胱]
9. 泌尿器系[尿道]／生殖器系[男性, 女性]
10. 内分泌系[下垂体, 松果体, 甲状腺, 上皮小体, 副腎, 膵臓]
11. 神経系[総論, 延髄, 橋, 小脳, 中脳]
12. 神経系[間脳, 大脳, 脳室系]
13. 神経系[脊髄, 伝導路, 脳神経]
14. 神経系[自律神経]／感覚器系[視覚器]
15. 感覚器系[聴覚器, 皮膚]

#### 成績の評価

筆記試験(100%)で評価します。

## 自己学習

解剖学は人体の構造に関する知識を学習する科目であるため、各自、参考図書や模型、視聴覚教材を利用した予習と復習が必要です。予習では必ずテキストを一読して用語の確認、復習では指導したノートの作り方に則り講義内容を整理しましょう。

## 履修上の注意

1. 必修科目であるため、毎回の授業で出席を確認する。
2. 遅刻は3回の累積で1回の欠席とみなす。
3. 配付プリントは原則、再発行しないので紛失しないこと。
4. 平穏な受講環境と円滑な授業進行を行うため、受講生は一定の受講マナー（私語・飲食・携帯電話の禁止、脱帽）を守ること。（詳細は授業中に説明する）
5. 学籍番号順に前詰めで着座すること。

## テキスト

『入門人体解剖学』藤田恒夫 著（南江堂）

資料としてプリントを配付します。

## 参考文献

『日本人体解剖学』金子丑之助 原著（南山堂）

『プロメテウス解剖学 コア アトラス』坂井建雄 監訳（医学書院）

## オフィスアワー

在室時はいつでも。

## 研究室

診療研究棟 4階 407

授業用E-mail

[tomura@kansai.ac.jp](mailto:tomura@kansai.ac.jp)

講義コード	1N221013
講義名	生涯スポーツⅠ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1207
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 渡邊 俊哉	指定なし

#### 担当教員

渡辺 俊哉

#### 講義の目的

慢性的な運動不足による体力の低下は身体にゆがみを引き起こし、様々な疾病の原因となることが知られている。生涯スポーツⅠではこれらの疾病の予防・改善に有効なスポーツ・運動（太極拳、ストレッチング、体操などを含む）を適時実践するとともに、患者や高齢者を含めた地域の人々とのコミュニケーションを取る手段の一つともなるニュースポーツ(軽スポーツ)の指導法を含めた知識と技能を学ぶ。

#### 到達目標

スポーツの意味を理解する。  
 スポーツを楽しめるようになる。  
 スポーツを生涯にわたって実践して行けるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- ガイダンス（生涯スポーツ及びニュースポーツ種目の特徴の説明）  
 ※ 筆記用具を用意し指定された教室に私服で集合
- 第2週以降  
 「ニュースポーツ・運動の実践（ストレッチング、太極拳を含む）」
- 太極拳の基本
- 太極拳の基本
- 太極拳の基本
- 動作名：予備式（ユウベイシー）
- 動作名：起勢（チーシー）
- 動作名：手揮琵琶（ショウホイピーパー）
- 動作名：倒巻肱（ダオジェンゴン）
- 動作名：倒巻肱（ダオジェンゴン）
- 動作名：野馬分鬚（イエマフェンゾン）
- 動作名：野馬分鬚（イエマフェンゾン）

- 12. 動作名：単 鞭 (ダンビエン)
- 13. 動作名：十 字 手 (シーズーショウ)
- 14. 動作名：収 勢 (ショウシー)
- 15. 総まとめ

#### 成績の評価

実習科目である生涯スポーツⅠは実践することが重要であるため、技能の習得度、参加態度、積極性等を評価する。また、実技試験を行い、必要に応じてレポート提出を求める。

#### 自己学習

予習はいらないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

#### 履修上の注意

- ・スポーツ・運動の実践を通してその楽しさを体験し、生涯にわたって自分に合ったスポーツとして親しめるようになってほしい。
- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意する
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理する
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1 / 3欠席として取り扱う。

#### テキスト

特になし

#### 参考文献

特になし

講義コード	1N222013
講義名	生涯スポーツII
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1208
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 五十嵐 純	指定なし
非常勤	竹尾 吉枝	指定なし

#### 担当教員

五十嵐 純、竹尾 吉枝

#### 講義の目的

健康や体力の維持増進は、人生をより良く過ごす上で重要な問題である。しかし、今日の日常生活では身体活動の機会は減少し、体力の低下が進んでいる。一方、筋力の低下が進むと行動が制限されるばかりでなく、転倒による骨折の可能性、ひいては歩行困難を来す可能性が高まってくる。これらのことから生涯にわたって身体活動を行うことはより良い人生を送るために重要なことである。生涯スポーツIIでは、体力の維持、増進に有効であるスポーツの実践を通して、心身の良好な状態を維持する知識と技能を学ぶとともに、スポーツの楽しみ方を身につける。

#### 到達目標

スポーツの、意味を理解する、楽しめるようになる、生涯にわたって実践して行けるようになる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

##### 【五十嵐担当】

1. ガイダンス 指定の場所に私服で集合すること。

なお、具体的な事は掲示板に掲示します。

2. グラウトゴルフ①
3. グラウトゴルフ②
4. ワイングディスク①
5. ワイングディスク②
6. ワイングディスク③
7. ワイングディスク④
8. 卓球の基礎①
9. 卓球の基礎②
10. 卓球の基礎③

##### 【竹尾担当】

1. ガイダンス 体育館に私服で集合す

(持ち物：筆記用具、上履き)

2. 器具を使わない簡易体力測定1-1
3. 器具を使わない簡易体力測定1-2
4. エアロビックダンス2-1
5. エアロビックダンス2-2
6. ピラティス3-1
7. ピラティス3-2
8. ヒップホップ4-1
9. ヒップホップ4-2
10. チェアエクササイズ5-1

- 11.シングルの試合
- 12.ダブルスの試合
- 13.実技試験
- 14.ミニバレー
- 15.ミニバレー

- 11.チェアエクササイズ5-2
- 12.ダンスパフォーマンスの実際6-1
- 13.ダンスパフォーマンスの実際6-2
- 14.ダンスパフォーマンスの実際6-3
- 15.ダンスパフォーマンス発表会6-4

※天候により、授業内容を変更し体育館を使用することがある。

#### 成績の評価

平常点50%・学習到達度30%・授業に対する取り組み状況20%にて評価。

#### 自己学習

予習は行わないが、復習として、動きの再確認を行うこと。

#### 履修上の注意

- ・スポーツ用具は大切に扱う習慣をつけること。
- ・服装は動きやすい、授業にふさわしいものを着用すること。  
(膝掛け、マフラー、ネックウォーマー(スポーツ用を除く)は不可)
- ・体育館内は土足厳禁のため、体育館専用のシューズを用意すること。
- ・現金などの貴重品の取り扱いには十分注意し、各自で管理すること。(各自のロッカーや体育館の貴重品用ロッカーなど利用)
- ・ピアス、ネックレス、指輪、腕時計等の貴金属品は他人及び自己の危険防止のため身につけない。
- ・遅刻は1回を1/3欠席として取り扱う。

#### テキスト

特になし

#### 参考文献

特になし

#### オフィスアワー

木曜の昼休み

#### 研究室

診療・研究棟4階 401研究室

#### 授業用E-mail

[igarashi@kansai.ac.jp](mailto:igarashi@kansai.ac.jp)

講義コード	1N226013
講義名	生命のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1102
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 松本 弘	指定なし

#### 担当教員

松本 弘

#### 講義の目的

生命のしくみについては、最近、新聞紙上をにぎわす話題が多い。例えば、iPS細胞、ES細胞、ポストゲノム、遺伝子治療、組換え、DNA、形態形成、再生医療、生命倫理、環境倫理、バイオテクノロジーオートファジー等である。これらのことが、我々の生活にどうかかわってくるのか。特に医療系の道に進むものにとっては知らずにすまずことは出来ない。

生命のしくみ（生物学）は、基本的には生物の共通性と生物の多様性について学修することである。共通性は、分子（DNA、タンパク質）、細胞、個体、エネルギー、自己複製（生殖、発生、遺伝）等である。一方多様性は、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性等である。

以上の生物の共通性や生物の多様性の学習を通じて生物学的に探究する能力と態度を育てる。同時に生物学についての基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な自然観を修得する。さらに最新の生物学の成果や知見についても理解する能力を育成する。

#### 到達目標

1. 科学と科学の方法について細胞学の歴史を通して理解する。
2. 生態学や環境問題、生物の進化についての理解を深める。
3. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜について理解する。
4. 酵素の働き、同化（光合成）、異化（呼吸）のしくみを理解する。
5. 細胞の増殖、動物の発生過程と形態形成のしくみを理解する。
6. 遺伝の法則とDNAの複製、形質発現の過程を理解する。
7. バイオテクノロジーとその利用について理解を深める。
8. 生体防御と免疫のしくみを理解する。
9. ヒトの感覚器と筋肉の収縮、ホルモン系、神経系について理解を深める。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 科学の方法と細胞学の歴史
2. 個体群の生態学、生態系
3. 環境問題

4. 生物の進化
5. 細胞の構造と機能、細胞の成分、細胞膜
6. 酵素とその働き
7. 代謝（異化、同化）
8. 細胞の増殖（細胞分裂）
9. 発生と形態形成
10. 遺伝の法則とDNA、ゲノム、ポストゲノム等
11. DNAの複製と形質発現
12. バイオテクノロジーとその利用
13. 生体防御、抗原と抗体、体液性免疫、細胞性免疫
14. ヒトの感覚器、筋肉の収縮
15. ホルモン系、神経系

#### 成績の評価

レポート提出、授業態度等の平常点で約30%、筆記試験で約70%の総合判定により評価します。

#### 自己学習

毎回の授業には予習・復習をして臨むこと。

#### 履修上の注意

指定された座席に座ること。自分のノートを作ること。配布されたプリントは整理しておくこと。静穏な環境下で授業が進行するよう努力すること。授業中での飲食や携帯電話、居眠りなどは厳禁する。

#### テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社） 吉里勝利監修

#### 参考文献

必要に応じてその都度紹介します。

講義コード	1N229013
講義名	生命の化学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1104
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 大西 基代	指定なし

#### 担当教員

大西 基代

#### 講義の目的

生化学とは、生命現象を化学的に知ろうという学問ですので、この授業では、生化学の入門として、生体がどのような物質でつくられ、それらがどのような意味を持っているのかが理解できる事を目的とします。

#### 到達目標

生体がどのような化合物で成り立っているのかが説明できることを目標とします。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 総論(生命現象と生化学, 生体の構成成分)
2. 糖質の構造(単糖類)
3. 糖質の構造(二糖類と多糖類)
4. 糖質の構造と機能(グルコースの誘導體)
5. 脂質の構造(分類)
6. 脂質の構造と機能
7. アミノ酸の構造と機能
8. タンパク質の構造と機能
9. 核酸・ヌクレオチド
10. 水・無機質
11. 血液と尿
12. ホルモン
13. ビタミンの種類と機能
14. 酵素と疾患
15. まとめ

#### 成績の評価

定期試験にて評価します。

## 自己学習

予習よりはむしろ、受講後復習を行い、わからない場合は質問に来てください。

## 履修上の注意

試験、出席の取り方など詳細は第1回目の授業で説明をします。配布プリントは定期試験時に必要となりますので必ず保管をしてください。再配布はしません

## テキスト

『人体と構造と機能<sup>[2]</sup>「生化学」』三輪一智ら著（医学書院）

## 参考文献

『「イラスト」生化学入門（栄養素の旅）』相原英孝・大森正英著（東京教学社）

『図解よくわかる生化学』中島邦夫著（南山堂）

『コメディカルの生化学』石原英子編集（廣川書店）

『食を中心とした化学』北原重登ら著（東京教学社）

『錬成ゼミ<sup>[3]</sup>生化学』看護師国試対策委員会（メディカルレビュー社）

## 研究室

管理棟 2階209研究室

## 授業用E-mail

[onisi@kansai.ac.jp](mailto:onisi@kansai.ac.jp)

講義コード	1N230014
講義名	生命倫理
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1201
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 吉田 宗平	指定なし
非常勤	矢本 希夫	指定なし

#### 担当教員

吉田宗平、矢本希夫

#### 講義の目的

生命倫理という言葉の歴史は比較的浅く、英語のbioethicsが初めて使われたのは1970年頃である。生命倫理とは、近年の生命科学と医療技術の画期的発展により、生命と医療に関して生じてきた様々な倫理的、社会的問題について議論し、研究することを目的とするもので、医療系学生にとって学ぶべき必須の科目である

#### 到達目標

生命倫理の領域は、医療従事者と患者・一般市民とが医療の在り方について対等の立場で議論しあう場であるので、将来、医療人として、生命の尊厳を守る立場に相応しい素養を身に付けることを目標とする。

#### 授業計画表

#### 授業計画

##### <吉田担当>

- 1.生命倫理の歴史と今日的課題 (その1)
- 2.生命倫理の歴史と今日的課題 (その2)
- 3.患者にとっての医療—インフォームドコンセントとは?
- 4.終末期と死をめぐる倫理 (その1)
- 5.終末期と死をめぐる倫理 (その2)
- 6.終末期と死をめぐる倫理 (その3)
- 7.先端医療技術と倫理 (その1)
- 8.先端医療技術と倫理 (その2)
- 9.先端医療技術と倫理 (その3)
- 10.医学研究と倫理

##### <矢本担当>

- 11.出生をめぐる生命倫理 (その1)
- 12.出生をめぐる生命倫理 (その2)

13. 出生をめぐる生命倫理 (その3)
14. 出生をめぐる生命倫理 (その4)
15. 出生をめぐる生命倫理 (その5)

#### 成績の評価

定期試験あるいはレポートにより評価する。

1. 授業計画1～10 (吉田担当) についてはレポート評価にて60点配分。
2. 授業計画11～15 (矢本担当) については試験評価にて40点配分。
3. 以上を合計して100点満点に換算して成績を評価する。

#### 自己学習

配布した講義資料や以下に掲げた参考図書を利用すること。

#### 履修上の注意

将来の医療人を目指す上での倫理感と責任感を修得する。自分でよく考えること。

#### テキスト

講義時に配布する資料にて行う。

#### 参考文献

- 「生命倫理と医療倫理」(金芳堂)伏木信次他編
- 「生命倫理への招待」(金芳堂)塩野寛、清水恵子著
- 「学生と考える倫理」(ナカニシヤ出版)金子章道、金内雅夫、川田田美著
- 「看護学生のための倫理学」(金芳堂)攻訂2版高谷修著

#### オフィスアワー

月曜日昼休み時間 (12:30～13:30)

#### 研究室

管理棟2階学長室 (吉田)

#### 授業用E-mail

[yoshida@kansai.ac.jp](mailto:yoshida@kansai.ac.jp)

講義コード	1N310013
講義名	物質と自然のしくみ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1103
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

#### 担当教員

井本 泰彦

#### 講義の目的

医療のみならず我々の日常生活の中で無意識のうちに物理の原理・法則を利用している場合が多くある。したがって、これらを物理学の基本にもとづいて整理すると広い範囲で合理的な対応が容易になり、将来の生活に極めて有用になる。

当講義では日常に見られる物理現象や医療に関係する物理現象を例として取り上げ物理学の法則性を理解するとともに基礎知識を身につけることを目的としている。

看護に関係する事項に重点をおいて、数式による扱いを最小限にして物理学を基礎から解説するので、高等学校で理解不足を感じた人や物理を履修しなかった人は是非受講を望む。

#### 到達目標

あらゆる物理現象がその法則に基づいて起こっていることを理解し、法則に従って起こりうる現象を予測して適切な判断ができる能力と看護技術に積極的に活用できる力を身につけたい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 物理量と単位、等速直線運動
2. 等加速度運動
3. 力と加速度 運動の法則①
4. 運動の法則②、運動量、力の釣り合い、ベクトル、トルク①
5. トルク②、医療におけるトルク、仕事と力学的エネルギー
6. 圧力①（気圧、水圧、浮力、血圧、サイフォン）
7. 圧力②（単位の換算、水の沸騰、オートクレーブ）
8. 熱と温度①（熱量、熱伝導）
9. 熱と温度②（水の三態変化、仕事と熱）
10. 気体の法則、酸素ポンプ、エネルギー保存の法則、熱機関
11. 音（波の性質、うなり、ドップラー効果）、超音波診断
12. 光（紫外、赤外、反射、屈折、スペクトル）、レーザー
13. 電気に関する法則、交流、電磁誘導、アース、医療と電気

14. 放射線の種類とその利用、放射線防護

15. 総まとめ

### 成績の評価

レポート、小テスト、授業態度(積極性)を平常点として40%、学期末試験を60%として、総合的に評価する。

### 自己学習

テキストに目を通しておくこととノートを読み返しを望む。

### 履修上の注意

講義を聞いて理解するだけでなく、広く日常生活と関連づけて問題点を発見し、その解決方法を自ら求めながらの学習を望む。

レジュメを用意するのでノートに貼るか綴じるかして十分な書込をして理解を深めてほしい。質問は歓迎する。

### テキスト

「系統看護学講座 基礎分野 物理学」  
(医学書院) 豊岡 了

講義コード	1N416012
講義名	科学の基礎
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1101
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 井本 泰彦	指定なし

#### 担当教員

松本 弘・井本 泰彦

#### 講義の目的

生物・物理・化学の各分野の重要項目について理解を深めることにより、専門科目の学習の基礎を確実なものとする。生物分野では、科学思想および科学の方法について教授し、生物の共通性と多様性を学ぶ。

物理・化学分野においては、高等学校で履修すべき重要項目を基盤にしながら看護に関係する重要項目の理解を深める。したがって、高等学校で履修していない科目がある学生や、理解不足であった学生の受講を望む。

#### 到達目標

- 1.細胞学の歴史と科学の方法が理解できる。
- 2.遺伝子および生態学の基礎が理解できる。
- 3.看護に必要な物理学の基礎が理解できる。
- 4.看護に必要な化学の基礎が理解できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 科学と科学の方法
2. 細胞学の歴史と細胞
3. 遺伝子DNAとその複製について
4. 遺伝子からの形質発現の調節
5. 生態学の基礎
6. 基本的な物理量と単位（質量、加速度、力、重力など）
7. 力の働き（ベクトル、摩擦、仕事、モーメントなど）
8. 圧力（大気圧、血圧、単位、ボイルの法則、分圧）
9. 波の性質（ドップラー効果、超音波）、放射線の基礎
10. 電気（オームの法則、電力、感電、測定機器と人体）
11. 周期表と身近な元素、原子の構造、イオン
12. 分子量、式量、物質量、溶液の濃度

13. 化学変化と化学反応式、酸と塩基、pH
14. 酸化と還元、身近な無機化合物
15. 有機化合物（石油、油脂、炭水化物、タンパク質）

#### 成績の評価

各分野とも、レポート・授業態度等の平常点で約30%、筆記試験で約70%とする。

#### 自己学習

毎回の授業には予習をして臨み、復習を行うこと。

#### 履修上の注意

1. 自分のノートを作成し、配布したプリントは整理する。
2. 私語、飲食、携帯電話、居眠りなどは厳禁である。
3. 生物分野は松本が、物理・化学分野は井本が担当する。

#### テキスト

「スクエア最新図説生物」 （第一学習社）  
吉里勝利監修

#### 参考文献

「看護に必要なやりなおし生物・化学」 （照林社） 時政孝行  
「看護に必要なやりなおし数学・生物」 （照林社） 時政孝行

講義コード	1N417012
講義名	統計学の基礎
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	科学的思考の基盤
科目ナンバリング	GE-1105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 安藤 仁朗	指定なし

#### 担当教員

安藤 仁朗

#### 講義の目的

医療の世界では、個人的な経験に基づくのではなく、何らかの「根拠」に基づいた実践が求められます。ここで言う「根拠」とは、誰もが認める科学的に実証されたものでなければなりません。そのため、看護や保健に関する研究では多くの人を対象としたアンケート調査が実施されていますが、得られたデータを解析する方法が適切でなければ、科学的根拠に基づいた結論を導くことは出来ません。そのためには、統計学を学ぶことが必要となります。

そこで、本講義では、上位科目を学ぶうえで基礎となる、基本的な統計処理の方法を学びます。

#### 到達目標

1. 基本的な統計学の用語がわかること。
2. 基本的な統計手法に習熟すること。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 統計とは、統計学とは
2. 量的データの集計 (1) : 平均値、分散、標準偏差、
3. 量的データの集計 (2) : 度数分布表、ヒストグラム
4. 量的データの集計 (3) : 中央値、範囲
5. 量的データの集計 (4) : パーセンタイル
6. 量的データの集計 (5) : 箱ひげ図
7. 無作為抽出と正規分布: 無作為抽出、正規分布、偏差値
8. 質的データの集計と検定 (1) : 単純集計とクロス集計
9. 質的データの集計と検定 (2) : 比率の差の検定1
10. 質的データの集計と検定 (3) : 比率の差の検定2
11. 平均値の差の検定 (1) : 独立した標本の場合
12. 平均値の差の検定 (2) : 母平均と標本平均の差の検定、対応のある t 検定
13. 二変数の関連: 相関
14. 回帰と推定 (1) : 回帰式

## 15. 回帰と推定（2）：回帰推定値

### 成績の評価

定期試験の成績（100%）で評価します（予定）。

### 自己学習

欠席した場合、必ず翌週までに内容を確認しておいて下さい。

### 履修上の注意

- ・数学的な知識は特に必要としません（「足し算と掛け算が混じっているときは、掛け算から先に計算する」ということぐらいが分かっている程度で構いません）。
- ・授業時には、 $\sqrt{\quad}$ （ルート）の計算ができる電卓が必要となります（詳しくは初回授業時に説明します）。

### テキスト

適宜、プリントを配布します。

### 参考文献

「改訂版 やさしい統計学—保健・医療・看護・福祉関係者のために」（桐書房） 片平 洵彦 著

### 授業用URL

<http://kuhs.iaigiri.com/>

講義コード	1N418012
講義名	日本国憲法（法の基礎知識）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1202
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 池田 裕明	指定なし

#### 担当教員

池田 裕明

#### 講義の目的

法学の基礎的知識日本国憲法について解説することをこの講義の目的とする。しかし、何も難しいことを講義しようとするものではない。むしろ、我々の日常生活の中にいかに多くの法律関係・法律問題が存在しているかということ、伝統的な法学の体系に即した講義を行うことにより、理解してもらいたいと考えている。現実の生活を法的に理解・説明できる素養を習得しようとするものである。

形式としては、通常の講義形式で行う。内容としては、プロローグとして、六法の使い方等について解説したうえで、法の本質、法の種類、裁判制度等の、いわゆる法学の総論的な問題および日本国憲法を扱う。

#### 到達目標

学生諸君の将来の進路に鑑み、可能な限り、医事的・時事的問題もとりあげたい。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. プロローグ
2. 法とは何か
3. 日本国憲法 1 日本国憲法と明治憲法
4. 日本国憲法 2 国会
5. 日本国憲法 3 内閣
6. 日本国憲法 4 裁判所
7. 日本国憲法 5 基本的人権
8. 日本国憲法 6 基本的人権
9. 日本国憲法 7 基本的人権
10. 日本国憲法 8 地方自治
11. 家族と法
12. 医療と法
13. 犯罪と法

14. 労働と法

15. エピローグ

#### 成績の評価

成績評価は、期末とミニツツペーパーおよびレポート等。  
なお、詳細については、第1回目の講義において説明する。

#### 履修上の注意

講義形式という制約から、どうしても一方的講義とならざるを得ないが、受講者とのコミュニケーションをはかるために、ミニツツペーパーを随時実施する。このミニツツペーパーでは、課題に答えてもらうと共に、受講者から質問、疑問を提起してもらうことで、それらの問題を講義にとり入れていきたいと考えている。なお、このミニツツペーパーは成績評価の際に、資料の一つとして利用する。さらに、このミニツツペーパーは出席調査の意味ももっている。

#### テキスト

「目で見える憲法」 (有斐閣)

「現代法学入門」 (有斐閣)

「ポケット六法 (2017年)」 (有斐閣)

#### 参考文献

講義において紹介する

講義コード	1N419012
講義名	社会学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1204
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 木村 弘之	指定なし

#### 担当教員

木村弘之

#### 講義の目的

講義では、「社会学的なものの見方」について説明していきます。子育て、母親の役割、恋愛、結婚、うわさ話など具体的な事象を例に、社会的変数から焦点を当てることで、そこに意外な視点を発見していく過程を紹介していきます。

#### 到達目標

講義で紹介する「社会学的なものの見方」について理解し、そのように捉えることのメリット、デメリットなどについて考察できるようになること。

#### 授業計画表

--

#### 授業計画

1. 社会的な見方について
2. 夫婦関係における社会性① ジェンダーと性同一障害
3. 夫婦関係における社会性② 恋愛結婚と社会階級
4. 夫婦関係における社会性③ 結婚戦略と婚活
5. 親子関係における社会性① 母性は本能か
6. 親子関係における社会性② 3歳児神話について
7. 親子関係における社会性③ 母子同室制と育児の知識
8. 家族と社会① 高齢化社会のはじまり
9. 家族と社会② 高齢者の役割と居場所
10. 家族と社会③ 少子化社会の課題と可能性
11. 家族と社会④ 育児不安と児童虐待
12. メディアと社会① 食育とフードファディズム
13. メディアと社会② 都市伝説と世間
14. メディアと社会③ ナンバ歩行について
15. メディアと社会④ 社会の医療化

## 成績の評価

小レポートを60%、期末レポートを40%として評価します。

## 自己学習

講義内容を応用できる具体例を、日頃の生活の中で色々と探してみることに。

## 履修上の注意

特にありません。

## テキスト

毎回、プリントを配布します。

## 参考文献

講義の中で、適宜、紹介します。

講義コード	1N420012
講義名	教育学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	人間と生活
科目ナンバリング	GE-1206
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	選択

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 北山 敏和	指定なし

#### 担当教員

北山 敏和

#### 講義の目的

「教育＝学校」と狭くとらえるのではなく、私たちの社会や生活のさまざまな場面、例えば家庭や保健医療の場で行われている教育的な営みにも注目し、教育の仕組み、歴史、さまざまな教育実践の形など、教育に関する基本的なことからについて幅広く学ぶ。

また、仕事や生活など、これからの人生のさまざまな場面で活用できる、自分自身を高め伸ばして行く力、好ましい人間関係を作ってゆく力である「行動する力(＝ライフスキル)」についての基本を理解し、実践できるようにする。

学習はグループ活動とディスカッションを基本とし、受講者がそれぞれに持つ知識、経験、情報を共有することを通して、個人の能力だけではなく集団としての能力が高まることを体験的に学ぶ。

#### 到達目標

- 1 教育の目的や方法、基本的な制度や仕組みが分かる
- 2 人間の「能力」と「教育」の関係が分かる
- 3 発達段階とその行動特性が分かる
- 4 ライフスキル教育と健康な社会の関係について分かる
- 5 ライフスキル使って実生活を改善向上させることが出来る

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 教育学で何を学ぶか(オリエンテーション)
2. 遊びと学習：自然な学びと組織的・計画的な学び
3. 公教育と私教育：学校と法律
4. 教育と能力：人間の能力の多様性
5. 学力とは何か：学力についてのさまざまな考え方
6. 考える力と行動する力：私たちの人生とライフスキル
7. 発達段階と教育(1)発達段階とは何か
8. 発達段階と教育(2)子どもの発達と行動特性

9. 発達段階と教育(3)思春期／青年期の発達と行動特性
10. 現代の教育問題(1)心理社会的能力の現状
11. 現代の教育問題(2)自尊感情と自信
12. 教育と地域社会：社会参画とサービス活動
13. ニーズに応じた教育：特別支援教育
14. 教育と医療の協働：予防医学と健康教育
15. 健康な社会と教育：ヘルス・エンパワーメント

#### 成績の評価

授業後のミニレポート50% 課題についてのレポート50%

#### 自己学習

毎授業後に授業のまとめとしてミニレポートを提出し、前期の中間と終了後の2回、課題についてレポートを提出する

#### 履修上の注意

グループ活動を中心にアクティブ・ラーニングで学習を展開するため、準備・後片づけを含め司会進行、記録、発表などの役割を分担し、積極的に自分の意見、考えを発表すること

#### テキスト

必要な場合には資料を配布する

#### 参考文献

- 「よく分かる教育学原論」 (ミネルヴァ書房)
- 「育児の国際比較—子ども社会と親たち」 (日本放送出版協会)
- 「教育を原理する—自己に立ち返る学び」 (法政大学出版局)
- 「ライフスキル教育入門」 (風人社)
- 「対訳21世紀に生きる君たちへ」 (朝日出版社) 司馬遼太郎

#### 授業用E-mail

[heisan.kitayama@nifty.com](mailto:heisan.kitayama@nifty.com)

講義コード	1N421012
講義名	東洋医療の基礎・導入教育
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	
科目ナンバリング	GE-1001
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

#### 担当教員

保健看護学科の専任教員全員

#### 講義の目的

この授業は、本学科の趣旨を理解し、医療人を目指す大学生として学修に関する基本的なスキルを学ぶ科目である。学修のスキルとは、自己学習の方法、学びの振り返り、文献検索や検討方法、グループでの討議や学習活動、レポート作成やプレゼンテーション等である。また、東洋医療に関しては、その一端を知ることによって、全人的な医療の考え方や2年次以降の選択科目へと発展するための一助とする。

これらの学びを通して、学生として主体的に学ぶとは何かを自分自身に問い、大学生活が実りの多いものとなることを期待する。

#### 到達目標

1. 事前学習をして授業に臨む学習習慣が身につく。
2. 自己学習にe-ラーニングを活用することができる。
3. 授業での学びを振り返り課題を見出すことができる。
4. グループディスカッションに積極的に取り組むことができる。
5. チームの一員として主体的に取り組むことができる。
6. 自分の考えを他者が理解できるようにプレゼンテーションできる。
7. 自分の考えを他者に伝えるようにレポートにまとめることができる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ガイダンス及び大学での学びとは何かを考える。
2. グループワークとグループディスカッションについて
3. プレゼンテーションについて
4. プレゼンテーションの実際
5. 文献検索について
6. BLSの体験
7. 東洋医療の入門1
8. 東洋医療の入門2

- 9. レポートについて
- 10. レポート発表とディスカッション
- 11. プレゼンテーションとディスカッション
- 12. 全体発表に向けたグループワーク1
- 13. 全体発表に向けたグループワーク2
- 14. 全体発表1
- 15. 全体発表2

#### 成績の評価

グループ活動及び日々の学びの記述39%、プレゼンテーション20%、レポート21%、eラーニングを活用した課題学習20%で評価する。

#### 自己学習

- 1. 大学が提供しているe-ラーニングを活用して自己学習する。
- 2. 1回目の授業で配布する「ワークブック」に記載している事前学習を行う。
- 3. プレゼンテーションやレポートの作成等の自己学習を行う。

#### 履修上の注意

- 1. 演習科目のため、5分の4以上の出席がないと単位認定できない。
- 2. 第1回目で配布する「ワークブック」を持ってくる。

#### テキスト

江原 勝幸 プチナースBOOKS 看護学生のためのレポートの書き方教室 照林社

#### 参考文献

授業中に適宜紹介する。

#### オフィスアワー

グループワークを担当している教員にあらかじめ連絡をしてください。

講義コード	1N422011
講義名	生体を構成する物質とはたらき
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 町谷 安紀	指定なし

#### 担当教員

町谷 安紀

#### 講義の目的

この科目は、生体がどのような物質でなりたち、それらの物質がどのような働きをしているかを学ぶことにより、生体の恒常性や正常なしくみと異常を理解し、看護に役立てることを目的とする。将来の看護につながる疾患の理解に関連する内容を重点的に講義を行う。

#### 到達目標

1. 生体を構成する物質が説明できる。
2. 生体を構成する物質が生体内でどのように機能しているか説明できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 第1章 生化学を学ぶための基礎知識
2. 第2章 糖質
3. 第3章 脂質
4. 第4章 タンパク質
5. 第5章 核酸 第6章 水と無機質
6. 第7章 血液と尿
7. 第8章 ホルモンと生理活性物質
8. 第9章 代謝のあらまし 第10章 酵素 (前編)
9. 第10章 酵素 (後編) 第11章 ビタミンと補酵素
10. 第12章 糖質代謝
11. 第13章 脂質代謝
12. 第14章 タンパク質代謝
13. 第15章 核酸代謝 第16章 ポルフィリン代謝
14. 第17章 代謝の異常
15. 第18章 遺伝情報 第19章 先天性代謝異常

#### 成績の評価

試験 %・毎回講義前に実施する小テスト %

(追試験・再試験に関しては、小テストの点数を考慮せず、試験100%とする。)

### 自己学習

生体機能や病態の理解には欠かせない内容であるので、講義の復習をしっかりと行うこと。

### 履修上の注意

前期の「生命の化学」では、主に生体を構成する化合物の理解を中心とする。したがって、本科目の内容を理解するためには、「生命の化学」を履修することが望ましい。

看護師として知っておくべき内容を重点的に講義し、病態生理や薬理の講義につなげる講義を行う。毎回（初回を除く）講義前に前回の内容の小テストを行うので、復習をしっかりと行うこと。

### テキスト

「系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能②」  
(医学書院) 三輪一智他著

### 参考文献

授業内で適宜紹介する

講義コード	1N423011
講義名	人間の発達
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護にいかす心と体のしくみ
科目ナンバリング	N1-2106
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 狩野 真理	指定なし

#### 担当教員

狩野 真理

#### 講義の目的

人は誕生してから死に至るまで、常に絶え間なく発達し続ける存在である。これらの人間の発達を看護の視点でとらえ、それぞれの時期での発達の課題や健康問題について考える。

#### 到達目標

1. 発達は身体面・心理面・社会面が生涯を通して変容していく過程であることを知り、発達段階と発達課題を理解する。
2. 発達の各期に生じやすい健康上の問題と必要な支援について理解する。
3. いわゆる正常発達を理解した上で、医療専門職者としての基盤を築く。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. オリエンテーション・人間の発達の関連概念
2. 発達理論ーゲゼル・フロイト・マラー・ピアジェ・ボウルビィ
3. 発達理論ーレビンソン・ハヴィガースト・エリクソン
4. 人間のライフサイクルと発達
  - ① 胎児期の形態・機能的側面、心理的側面の発達および発達に関わる問題と必要な支援
5. ②ー1 乳幼児期の形態・機能的側面の発達
6. ②ー2 乳幼児期の心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
7. ②ー3 発達障害
8. ③ー1 学童期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および発達に関わる健康上の問題と必要な支援
9. ④ー1 思春期の形態・機能的側面および心理・社会的側面の発達
10. ④ー2 思春期の発達に関わる健康上の問題と必要な支援
11. ⑤ 青年期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
12. ⑥ 成人期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達および健康上の問題と必要な支援
13. ⑦ー1 老年期の形態・機能的側面、心理・社会的側面の発達
14. ⑦ー2 老年期の健康上の問題と必要な支援

## 15. 学習のまとめ、および目標達成度の確認

### 成績の評価

期末試験70%・授業内小レポート20%・平常点10%

### 自己学習

テキストと配布資料による復習をしてください。

### 履修上の注意

講義の最後に小レポート（質問を含む）を書き、提出してもらいます。

### テキスト

「看護のための人間発達学」（医学書院）舟島なをみ  
講義の資料として、適宜プリントを配布します。

### 参考文献

「手にとるように発達心理学がわかる本」（かんき出版）小野寺敦子著  
「ナースのための心理学③パーソナリティ発達論—生涯発達と心の危機管理」（金子書房）岡  
堂哲雄編  
「よくわかる発達心理学」（ミネルヴァ書房）無藤隆他

講義コード	1N424011
講義名	看護にいかす病因・病態学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	看護にいかす疾病の成り立ちと回復の促進
科目ナンバリング	N1-2201
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 伊藤 俊治	指定なし

#### 担当教員

伊藤俊治

#### 講義の目的

疾患の発生と進行についての科学を病理学という。病因病態学とは病理学そのものである。本講義では人体の正常構造・機能がどのように異常を来し、疾患が発生していくかについて、正しい知識を身につけ科学的・体系的に理解することを目的とする。

#### 到達目標

基本的な身体の機能とその異常について科学的な説明が出来る。炎症、腫瘍、先天異常などの基本的な疾患のメカニズムを理解し説明できる。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. 病理学の基礎
2. 組織の障害と適応
3. 組織の修復と再生
4. 炎症
5. 炎症
6. 循環障害
7. 循環障害
8. 免疫系とその異常
9. 免疫系とその異常
10. 感染症
11. 腫瘍
12. 腫瘍
13. 先天異常
14. 先天異常
15. まとめ

#### 成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートを課す場合がある。

#### 自己学習

病理学を学ぶためには、生物学、生化学、解剖学の知識が必須である。前期に行われるこれらの講義の内容を復習・理解しておくこと。また、事前に教科書の該当部分について予習しておくことを強く推奨する。

#### 履修上の注意

出席率の低い者には試験の受験を認めない場合がある。

#### テキスト

系統看護学講座「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

#### 参考文献

「ロビンズ基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

#### オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

#### 研究室

診療・研究棟 4 F 407研究室

#### 授業用E-mail

[itohshun@kansai.ac.jp](mailto:itohshun@kansai.ac.jp)

講義コード	1N425011
講義名	基礎看護技術論Ⅰ（共通技術）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3105
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

#### 担当教員

中納美智保・山根木貴美代・松下直子・井出窪澄子

#### 講義の目的

看護技術は、人を対象にした技術であることを理解したうえで実践することが重要である。この科目では、あるゆる看護実践の共通技術である対象者の安全を守る技術、コミュニケーション技術、療養環境を整える技術の3つの技術の習得を通して、看護の技術とは何か、他者への倫理的配慮とは何かを学ぶ。

#### 到達目標

- 1.スタンダードプリコーションなどの感染予防に対する知識が理解できる。
- 2.看護師としての手洗いの必要性および重要性を理解し、手洗いの技術が習得できる。
- 3.看護におけるコミュニケーションの特徴を理解し、コミュニケーションの基本技術が実施できる。
- 4.人々の生活環境とは何かを理解し、療養環境である病室を整える技術が実施できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.看護技術の定義、ケアを通じてもたらされる安楽
- 2.感染の成立と予防、標準予防策（スタンダードプリコーション）
- 3.感染経路別予防策の基礎、感染拡大の防止と対応
- 4.手洗いの演習（日常的手洗いと衛生学的手洗い）
- 5.看護におけるコミュニケーションの構造とプロセス
- 6.基礎的コミュニケーション技術（言語的・非言語的コミュニケーション、面接技法）
- 7.コミュニケーション演習（ロールプレイ）
- 8.コミュニケーションの振り返り、コミュニケーションに障害がある人々への対応
- 9.療養環境について（病院の定義、病床環境、共有・居住スペース）
- 10.環境の調整と病床の整備（転倒・転落の防止）、安楽を保つための環境
- 11.療養環境を整える技術（ベッドメイキング）
- 12.体位の基礎（姿勢・体位の特徴、ボディーメカニクスの原理、廃用症候群の定義）
- 13.安楽の姿勢・体位（体位の種類と影響、ポジショニング）

14.体位・体位変換の演習（基本的体位変換・良肢位および関節可動域の確認）

15.臥床患者のリネン交換の演習（看護師2人による下シーツの交換）

#### 成績の評価

筆記試験70%・実技試験20%・演習記録および平常点10%

#### 自己学習

テキストの該当箇所を事前に読み、学習内容を把握しておく。

#### 履修上の注意

- 1.それぞれの技術の実技チェックを受ける。実技チェックの詳細については授業で説明する。
- 2.演習は看護者としての心構えを持って臨む。適切でない身だしなみの場合は減点とする。
- 3.演習前や演習後の演習記録の課題がある。

#### テキスト

- 1.「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）有田清子他
- 2.「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」（医学書院）有田清子他

#### 参考文献

授業の中で適宜紹介する

#### オフィスアワー

昼休み、5限目（事前にメールで連絡してください）

#### 研究室

5号館7階C708研究室

#### 授業用E-mail

[nakano@kansai.ac.jp](mailto:nakano@kansai.ac.jp)

講義コード	1N426011
講義名	基礎看護技術論Ⅱ（日常生活援助技術）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N1-3106
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 中納 美智保	指定なし

#### 担当教員

中納美智保・山根木貴美代・松下直子・井出久窪澄子

#### 講義の目的

看護技術は、対象となる人々の基本的ニーズを査定し、その対象にとっての最も最適で安全・安楽な方法で実施することが重要である。この科目では体位や移動に関する技術、清潔や衣生活を整える技術、食事・栄養を整える技術、排泄を整える技術、睡眠・休息を整える技術の学修を通して看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養う。

#### 到達目標

- 1.日常生活行動についての知識をもとに安全・安楽・自立に配慮した援助技術の原理・原則を理解し、実施できる。
- 2.演習を通して看護実践を支える倫理的な姿勢や態度を養う。

#### 授業計画表

#### 授業計画

- 1.清潔・衣生活の援助（意義、影響する要因）
- 2.清潔・衣生活のアセスメントと援助方法1
- 3.清潔の援助技術の演習（部分清拭と寝衣交換）
- 4.清潔の援助技術の演習（手浴、足浴）
- 5.清潔の援助方法2
- 6.食事・栄養の援助（意義、影響する要因、
- 7.清潔の援助技術の演習（洗髪）
- 8.清潔の援助技術の演習（口腔ケア）
- 9.排泄の援助（意義、影響する要因、アセスメント）
- 10.清潔の援助技術の演習（陰部洗浄）
- 11.活動と移送の技術
- 12.移動の援助技術の演習（車椅子、ストレッチャー）
- 13.休息・睡眠の援助（意義、アセスメント、睡眠障害）
- 14.排泄の援助（尿失禁、便失禁）
- 15.まとめ

## 成績の評価

筆記試験70%・実技試験20%・演習記録と平常点10%

## 自己学習

テキストの該当箇所を事前に読んで学習内容を把握すると共に基礎看護技術論Ⅰの内容を復習しておく。

## 履修上の注意

- 1.それぞれの技術の実技チェックを受ける。実技チェックの詳細については授業で説明する。
- 2.演習は看護者としての心構えを持って臨む。適切でない身だしなみの場合は減点とする。
- 3.演習前や演習後の演習記録の課題がある。

## テキスト

- 1.「基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」(医学書院) 有田清子他
- 2.「基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」(医学書院) 有田清子他

## 参考文献

## 適宜紹介する

## オフィスアワー

昼休み、5限目(事前にメールで連絡ください)

## 研究室

5号館7階C708研究室

## 授業用E-mail

[nakano@kansai.ac.jp](mailto:nakano@kansai.ac.jp)

講義コード	1N427011
講義名	成人期の健康と看護
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N1-3301
対象学科・学年	保健看護学科・1年
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北得 美佐子	指定なし
教員	井村 弥生	指定なし

#### 担当教員

北得 美佐子 井村 弥生

#### 講義の目的

ライフサイクルからみた成人の身体的・心理的・社会的な特徴を理解し、成人期の人々の発達段階や健康上のニーズに関する知識を習得し、成人看護の役割と機能を理解する。

#### 到達目標

1. 人間のライフサイクルにおける成人の身体的・心理的・社会的特徴を述べることができる。
2. 成人期の発達課題の段階を述べることができる。
3. 看護、健康、人間、社会に関する概念を用いて、発達課題や保健行動の特徴を理解できる。
4. 成人の健康問題を健康上のニーズに対応させて理解できる。
5. 成人の発達課題や健康問題の特徴を踏まえて看護の提供と方法を考察できる。

#### 授業計画表

#### 授業計画

1. ライフサイクルからみた成人の発達と特徴
2. 成人の生活と健康  
成人の健康問題の多様性と健康問題の生じる背景
3. 成人の健康問題の動向と課題（生活習慣病、ヘルスプロモーション）
4. 成人の健康障害と看護（家族支援）
5. 成人の健康障害と看護（関係性、エンパワメント、セルフマネジメント）
6. 成人の健康障害と看護（適応、ストレス、危機）
7. 成人の健康障害と看護（行動変容、自己効力感）
8. 医療システムと成人看護（外来看護、退院調整）

#### 成績の評価

筆記試験70%、課題レポートの提出20%、平常点10%、総合的に評価する。

#### 自己学習

解剖学、生理学、看護学概論など、既習の学習内容を基に授業展開するので、予習・復習などをして授業に臨むこと。

#### 履修上の注意

1. 学修の主体者であることを認識して、文献を読み積極的に討議・発言できることを期待する。
2. 授業内容に応じて課題に基づくレポート提出を求める。

#### テキスト

系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学①

#### 参考文献

講義の中で随時紹介する。

#### オフィスアワー

水曜日 12:00～13:00

#### 研究室

5号館7階 C705研究室（北得） C718研究室（井村）

#### 授業用E-mail

[kitae@kansai.ac.jp](mailto:kitae@kansai.ac.jp)